

# 県立図書館

## 第1節 概要

### 1 利用者の量と質

#### (1) ここ数年をかえりみて

新館舎に移転したのは昭和33年11月であり、巨視的にかえりみれば、昭和33年度は「新館舎に移るための準備の年」であり、また「落成祝賀の年」である。

昭和34年度は新館舎に移って初めて迎える年度であり、いわば「新館舎運営の試練の年」であり、また遅ればせながら「職員組織も確立された年」である。

昭和35年度は全国図書館大会及び北日本図書館大会などを引受け、表面的には「新館舎紹介の年」であったが、内部的には「利用規則」を初めとする図書館の諸規則が定められ、従来の「不文律による運営」から一歩前進した年である。

そこで昭和36年度は互いに猛省を加え、「図書館の内容を充実すべき年」であったらうと思われる。果してその願望は満たされたであろうか。

#### 昭和36年度努力目標と努力実践事項

努力目標	努力実践事項
I 図書館奉仕の徹底	(1) レファレンス室の整備と司書の強化 イ レファレンス室の独立 ロ レファレンス室の資料の整備 ハ レファレンス室の専任司書の配置 (2) 蔵書目録(第6冊目産業篇)の刊行 ◇ 既刊の蔵書目録 1 郷土資料篇 2 総記・哲学篇 3 歴史篇 4 社会科学篇 5 自然科学・工学篇 (3) ブックモビールの効果的な運営 イ 貸出文庫に重点をおく地域の設定 ロ 青少年巡回文庫に重点をおく地域の設定 ハ ブックモビールに重点をおく地域の設定

### II 図書館資料の充実

- ニ 県下全般にわたるブックモビールの活用
- (4) 職員研修活動の促進
  - イ 週2回職員研修会の開催
  - ロ 県内及び県外における研修会への参加
- (1) 基本図書の整備
  - イ 各部門にわたる基本図書の整備
  - ロ そのための民間人の協力体制づくり
- (2) 貸出文庫用の図書の充実
  - イ 図書選定委員会の活用
  - ロ 貸出文庫利用方法に関するPR
  - ハ 図書の寄贈運動の展開
- (3) 郷土資料及び行政資料の積極的な収集
  - イ 郷土資料及び行政資料を中心とする特別参考室の整備
  - ロ 県及び市町村の行政資料の収集方法の確立
  - ハ 地方史研究運動の促進と郷土資料の積極的収集及び保存

### III 読書層の開拓

- (1) 図書館文化事業の遂行
  - イ 文化資料展
    - 1) 近世資料展
    - 2) 「本ができるまで」展
    - 3) 貴重本展示会
  - ロ 読者と著者の集い(文化講演会)
  - ハ 地方史研究会
  - ニ レコード試聴会及び試写会(毎月)
- (2) 読書グループの育成
  - イ 読書会リーダー講習会
  - ロ 読書会同志の横のつながりの強化
- (3) 読書感想発表会の実施
  - イ 地方発表会の重視
  - ロ 発表内容の県民への速報
- (4) 館報「あづま」の増刊
- (5) 図書館施設の開放
  - イ 特別研究室
  - ロ 特別参考室
  - ハ 展示室
  - ニ その他
- (6) 他の図書館事業機関及び団体との